

主要事業評価シート(第1次実施計画/H29・30・31年度)

① 基本事項	計画コード	事業名	部名	上下水道部
	17009	第4水源地区給水機能強化事業	課名	上水道課 上水道工務G
	施策の大綱	01:快適さを支える生活基盤の向上	会計	11:水道公営企業会計
	基本施策	03:上下水道の充実	款	資1:資本的支出
	施策の方向	01:安全でおいしい水の安定供給	項	01:建設改良費
戦略プロジェクト	-	目	01:施設費	
事業予定期間	H 28 ~ H 29 年度		主な根拠法令要綱等 水道法	

② 目的・概要	対象	川崎町、能褒野町地区住民
	目的	川崎町・能褒野町等の安楽川以北の地域では、近年の宅地開発等の進行により、必要給水量が増加している。時間帯によっては水圧低下が発生していることから、これらを解消し、安定した安全でおいしい水の供給を図る。
概要	平成28年度にガス事業者が実施した安楽川ガス管推進工事に伴う負担金を支払うとともに、推進工事と並行して埋設した水道管と既設管を接続する。また、将来動向を見据え、能褒野橋前後の既設水道管を増径する。	

		平成29年度	平成30年度	平成31年度
③ 事業の計画・実績	年度計画	○ガス管推進工事に伴う負担金の支払 ○水道管工事 ・既設管との接続工事 ・能褒野橋前後の増径工事		
	年度実績	○安楽川渡河水道管(安楽川推進工事関連) 布設工事 全体延長 268.1m (H28からの繰越) ○ガス管推進工事に伴う負担金の支払 ○能褒野町地内(県道名越長明寺線ほか) 配水管改良工事 φ300・φ150 延長 531.5m		
事業費	計画額	事業費	167,600千円	
		国庫支出金		
		県支出金		
		地方債		
		その他		
一般財源	167,600千円	0千円	0千円	
事業費	予算額	事業費	191,714千円	
		国庫支出金		
		県支出金		
		地方債		
		その他		
一般財源	191,714千円	0千円	0千円	
事業費	決算額	事業費 ①	182,452千円	
		国庫支出金		
		県支出金		
		地方債		
		その他		
一般財源	182,452千円	0千円	0千円	
人件費	総人件費 ②	総人件費 ②	1,536千円	
		一般職員	1,536千円	
		所要人員	0.20	
		臨時職員等	0千円	
総コスト(①+②)		183,988千円		
受益者負担率		0.0%		

				平成29年度	平成30年度	平成31年度
④ 指標	①	名称	配水管改良工事進捗率	計画値	100	
			実施済み事業費/総事業費	実績値	100	
				単位	%	
	②	名称	能褒野地区水圧低下ポイントの水圧	計画値	20以上	
			第4水源池区配水管調査に基づく水圧低下ポイントの水圧状況(水頭値)	実績値	23	
				単位	m	
	③	名称		計画値		
				実績値		
				単位		

⑤ 事業の改善	前回評価	【前回評価の対応方針の概要を記入】 工事の早期発注及び早期完了に向けた三重県(道路管理者)及び東邦瓦斯(工程調整を必要とする関連会社)との連携を図り、事業を進めていく。
	改善行動	【前回評価の対応方針を踏まえ、どのような措置を講じたか】 能褒野町地内(県道名越長明寺線ほか)配水管改良工事においては、同一路線上の複数の工事(水道工事とガス工事)となることから、工程調整が最も重要となるため、ガス事業者と工程調整を図り、また、関連する道路管理者(三重県)へ道路占用協議及び申請を行った。

		評価	(判定)
⑥ 事業の評価	活動	【計画どおりに実施できたか】 ガス事業者との工程調整を行い、能褒野町地内(県道名越長明寺線ほか)配水管改良工事を早期発注したことにより、年度内に完成し計画どおりに実施ができた。	A 計画どおり実施できた
	成果	【成果は順調に上がったか】 工事完了後に水圧測定を実施した結果、使用水量ピーク時の最小水圧(水頭値)が工実施前の0.17MPa(17m)から0.23MPa(23m)に上昇し、底上げが出来た。	B まずまず成果を得た

⑦ 今後の対応方針	課題	【課題は何か】 能褒野地区及び川崎地区において、今後、住宅開発等による給水需要の増加が見込まれる場合、水量・水圧不足が発生することが懸念される。	今後の方向性 <input type="checkbox"/> 拡大 <input checked="" type="checkbox"/> 現状維持 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> その他 【その他の場合、その内容を記載】
	対応	【課題に対し、どのように対応するか】 給水需要の動向を観察し、必要となる水道管の増径改良工事等の検討を行なう。	
	効果	【対応することで、どのような効果が期待できるか】 水量・水圧不足を解消し住民に対し水道水の安定供給が図れる。	
対応時期		給水需要が増加してきたとき	

【1次評価者】	上下水道部 上水道課 上水道工務グループリーダー 山内 光広
【最終評価者】	上下水道部 上水道課長 杉本 良則